

古稀偶感

宮崎東明

年年善友を増し
日日清吟を楽しむ

有始有終の美
無塵無俗の心

【作者】宮崎東明(一八八九〜一九六九年)(明治二十二年〜昭和四十四年)・明治から昭和の医師・吟詠家・漢詩人。大阪府大東市野崎の名家に生まれた。大正六年大阪市福島区で胃腸科医院を開業するかたわら、書・詩・画・篆刻・吟詠などの道も極めた多才の人。昭和九年発起人となり関西吟詩同好会(現在の関西吟詩文化協会)を創設した。昭和二十三年に二代目会長となり、戦後の吟界を復興させ、さらに発展させた。我が国の吟界の大功労者である。昭和四十四年没す。享年八十一歳。

【語釈】*古稀…70歳。 *清吟…静かに吟じ また詩を作ること。 *無塵無俗心…清らかな心。 汚れた世の中に心を染めないこと。

【通釈】毎年、善い友人を増やし、毎日のように詩を作つて楽しみ、静かに吟じ続ける。始めから終わりまで、生涯一貫して常に美しい心を持ち、汚れもせず、世間に染められもせず、清らかな心を持ち続けたい。

【鑑賞】古稀を迎えた作者の晩年の心境。この詩は作者が昭和三十二年、古稀を迎えられた時の作で、晩年の心境が述べられています。

杜甫の「曲江(きょくこう)」という詩があり、その中の「人生七十古来稀なり」という名句から、古稀という言葉が広く使われるようになり
ました。